

第2分科会：第6会場

農業クラブ員に、農業クラブ活動の魅力を知ってもらうためにはどのような情報発信が効果的か

四国ブロック 香川県立笠田高等学校



食品科学科 2年 安藤 瑞希

食品科学科 2年 小出 思子

食品科学科 2年 新部 志歩美

1. 四国ブロックの概要

日本学校農業クラブ四国連盟は、四国四県（愛媛県・高知県・徳島県・香川県[うどん県]）で構成されており、「四国はひとつ」という大きなスローガンのもと、農業関係学校29校、クラブ員5,037名が日々目的を持って活動をしています。また各種発表や技術検定、農業鑑定競技にも熱心に取り組み、農業クラブ全国大会でも優秀な成績を収めることができます。



第66回日本学校農業クラブ四国大会の様子（左：旗手入場、中：レク発表[農業経営高校拓心太鼓部]、右：表彰）

2. 香川県立笠田高等学校の紹介



香川県立笠田高等学校は、讃岐の国・香川県の農業が盛んな西部地域の中央、三豊市豊中町にあり、農業科と家庭科を学ぶ専門高校です。昭和3年に香川県立三豊農業学校として創立されました。本年度で87年を数えます。創立以来脈々と受け継がれてきた「至誠、慈愛、勤労、剛健、自律」の校訓のもと、農業科・家庭科の専門教育を学んだ卒業生は1万3千名を超え、地域社会、地域産業の指導的立場で活躍しています。

農業系学科は平成18年に学科改編を行い、農産科学科、植物科学科、食品科学科の3学科体制となっています。また、平成25年から家庭科系学科は、生活デザイン科1学科が改編設置され、合わせた4学科12学級体制となっています。全校生徒は354名です。本校は、農場との間に、高速道路「さぬき豊中インターチェンジ」をはさむように位置し、自動車

の交通アクセスが抜群に良い学校です。

3. 香川県立笠田高等学校農業クラブ員の活動

(1) 地域農業振興の推進者として

「三豊ナス」の普及活動

三豊ナスは、普通のナスと比べて3倍ほどにもなる、大きなナスです。近年は広域的にファンが増えてきている話題の野菜です。香川県の西部地域では、50年ほど前から栽培されている、地域では昔からおなじみの食材です。しかし、他の地域には、一部出荷されていたものの、あまり流通しておらず、県内でも西部地域を離れると、知られていませんでした。

よく流通している一般的な交配品種と比べて、収穫までの日数が長く、日持ちがしないため、扱いにくい野菜でもあります。しかし、実際に食べると、実が大変やわらかく、皮が薄いので、とろけるような食感があります。この三豊ナスを、たくさんの人に知ってもらいたいと、生産者、商店、三豊市、県農協、県農業普及センターとともにPR活動、加工品の商品開発を行っています。

(2) 地域環境保護の推進者として

植物バイオテクノロジー技術を利用した保護・保全活動

平成25年秋に塩飽諸島の広島（ひろしま）の皆さんからの依頼を受けて、香川県のレッドデータブックで絶滅危惧種に指定されている「ササユリ」を増やそうと、野生種の培養に取り組んでいます。これまでには、香川県最後の湿原の再生とサギソウの保護・増殖の取り組み、香川用水調整池の宝山湖のビオトープ再生活動にも取り組んできました。

(3) 地域の食文化・食生活の創造推進者として

地元特産物の有効利用と消費拡大をめざした、金時ニンジン・ミカンジュース「飲んでGO！」の開発

私たちの先輩は、香川県三豊市仁尾町の袋掛けミカンの農家と観音寺市有明地区の金時ニンジン農家で実習を行ったことがありました。

そのとき先輩たちは、形が悪いというだけで多くの農産物が廃棄されている様子を目の当たりにし、この規格外農産物を何とか利用できないかと思っていました。

平成21年から研究をはじめ、平成23年に地元缶詰会社による商品化、平成25年には卸会社による全国展開がはじまりました。香川県内で21店舗、兵庫、徳島で各1店舗、岡山で4店舗となり、あわせて東京進出も果たし、JR山手線新橋駅にある香川・愛媛の物産館「せとうち旬菜館」、東急線渋谷駅直結の渋谷ヒカリエのほか4店舗での販売が始まりました。規格外生産物のよりよい利用方法を考え、また、地域の皆さん、地域を訪れた皆さんに、地域の特色ある農産物を再発見してもらう機会を作ることができました。



三豊ナスのゆるキャラ
「なすキング」

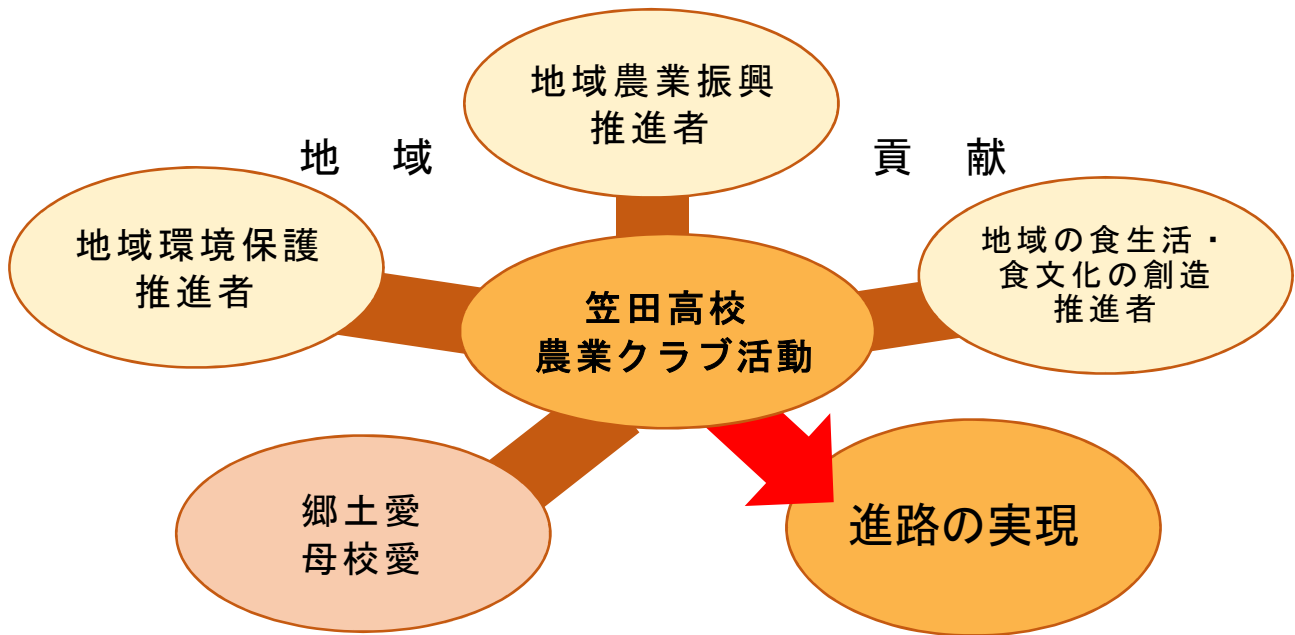


飲んでGO!

3. 農業クラブ執行部の農業クラブ員への情報発信アクションプラン

(1) 目指す単位クラブ

- ①農業クラブ活動の三大目標の達成を目指す「高い志」を全クラブ員が持つ単位クラブ
- ②あいさつができる、汗を流すことができる、掃除ができる、普通教科・専門教科の学習と部活動に励むことができる、全クラブ員が「勤勉・勤労」にいそしむ単位クラブ
- ③地域に育てられた全クラブ員が、地域の次世代を育てることができる、食と緑と命を大切にされた地域貢献活動を在学中、卒業後も「継続」できる単位クラブ



(2) これまでの課題と反省

農業クラブ活動のクラブ員への情報発信は、役員や顧問の先生がそれぞれ創意工夫をしながら様々な取組を実施してきました。その中で一定の効果があったと思われます。しかし、受け手であるクラブ員に十分届いていないのではないかと懸念もあります。クラブ員の農業クラブ活動に対するイメージの中には、好きな人だけがやっている、先生からやらされているなど、依然として、実際の農業クラブ活動と少し違う印象を持ったままになっていることもありました。よりよい情報発信のために、さらなる工夫が必要であることにも目を向けなくてはならないと思いました。

(3) よりよい情報発信のためのポイント

- ①農業クラブ活動に対する理解をより得るためには、クラブ員一人一人の関心、聞きたいことに留意し、全クラブ員に意識されるようにすることが必要です。
- ②全クラブ員に確実に届く情報発信を進めるため、「〇〇があります」「〇〇が決まりました」という説得・報告だけではなく、「〇〇しようよ」「〇〇をよりよいものに」と共感・協働を呼ぶ、顔が見える情報発信を進める必要があります。
- ③影響力が大きいテレビ、ラジオ、新聞、雑誌、地域広報等への情報発信活動で、クラブ員へ校内で直接届く情報だけでなく、校外でクラブ員の周囲から「放送見たよ」「記事読んだよ」と伝わる活動を行うことも必要だと考えます。

(4) 情報発信アクションプラン

①学校ホームページ、校内農業クラブ新聞、各種掲示物をより充実させ、活動の成果を常に学校内外へ情報発信します。

農業クラブの各行事、活動の成果などを掲載します。FFJ機関誌「リーダーシップ」、香川県連盟「FFJ新聞」と連動した情報発信を行います。クラブ員に農業について、進路について、じっくり見てもらう、じっくり考えてもらう機会を作ります。

②校内の活動報告会など、直接情報発信する機会をより充実させます。

夏休み明けの「夏季活動報告会」な

ど、クラブ員の活躍の情報を共有し、次回行事への参加意欲を高める雰囲気を作ります。

③情報発信に対する反応を確認し、フィードバックと改善を進めます。

情報発信に併せて、クラブ員から意見を聞きより良い単位クラブの進展に努めます。

(5) 直近の取組とこれから

今年度、平成15年度以来12年ぶりに四国連盟事務局校を担当し、四国連盟代議員会、四国大会の企画・運営を担当しました。併せて、香川県連盟事務局校として、県連盟の活動のとりまとめを担当しています。単位クラブとして、県連盟事務局として、四国連盟事務局として、それぞれの活動・事業に多くの本校農業クラブ員が参加しています。

8月25日、8月26日に開催した「第66回日本学校農業クラブ四国大会」では大会運営にあたる農業クラブ役員とともに、1学年の全農業クラブ員が参加しました。

大会に向けた準備期間、大会期間、大会後を通して上級生の農業クラブ役員が下級生の農業クラブ役員、農業クラブ員の期待に応えるべく、率先して運営にあたり、大会の円滑な進行に努めました。その中には、上級生は頑張る自分たちの姿をみて、上級生を目指すようになってもらいたい、そしてより充実した農業クラブ活動を目指すようになってもらいたいとの思いが強くなりました。

農業クラブの各活動を経験する中で、上級生から下級生へ、自校クラブ員から他校クラブ員へ、地域の皆さんへ、情報を発信する機会が多くあります。情報発信する内容、伝える・教える内容にあわせて、様々な手段を用いて、適切に発信することに努めました。このことは、情報発信するために、自分の持つ知識、技術、経験を整理してまとめることが求められました。上手く伝える・教えることができたときには、達成感、充実感もありました。また、十分に伝えきれなかったとき、教えきれなかったときには、その不足を補うために、何が必要かを自分で考え、あわせて、周りから助言を受けて改善しました。農業クラブ活動から「自分自身が成長するための情報発信」を行うことができたと思います。

情報発信を通して農業クラブ活動の魅力、頑張る楽しさ、農業を学ぶ楽しさをより多くクラブ員に知ってもらい、体感してもらえようようにしたいと考えています。



笠田高等学校ホームページ